

「自信を身につける」とは……

当 HP「書籍『不登校という生き方』を読んで（「雑学 BN」の「書籍等読後感関係（Ⅲ）」P、2006.03.11.：参照）」を目にしてくれたメル友から、次のようなメール。

【 小学生子育て真っ最中の私には、大変興味深い話題がこの所多いですね。

不登校のこどもに対する対応も、よいとされることはまちまちで、子育てに自信のない親にとっては何を信じたらいいのかわからなくなってしまふのは当たり前だと思います。

依頼を受けなければ動けない社会であり、親も私たち世代は、生きることにも欲がない、面倒臭い事には関わりたくない人間が多い。

こども達もまた誰を信じていいかわからなくなってしまいますよね。

ぜひ、フリースクールがっらいこどものせめて安心して過ごせる場所になり、良い意味で発展して行ってほしいと思います。 】

つい厚かましく、次のように返信した。

【 産まれた時から自信のある人（子ども）っていませんよね。

子どもの自信とは、時に辛さを伴うかも知れませんが、人（親）と係わり合う過程で育って行きますよね。

人（親）に喜んでもらえる（人を輔ける）ことができる自分であると気づくことこそが、自己存在感、自己肯定感、アイデンティティ感と云われるものに繋がり、それが子どもの自信になるということですよね。

一方、自信を持てるようになるためには自分はどうすればいいのかの思索が、今の大人にも少ないように思います。自信がないからと待ちの姿勢だったり、周りに頼ろうとしたり、マニュアルを欲しがったり……。

マニュアル通りにすれば、考える必要なく一見楽ですが、自信が身につくことにはなりませんよね。

マニュアルは、自己肯定、アイデンティティを得るための一つの手段に過ぎないのに、目的と勘違いしている人が多い。ですから、マニュアル通りが目的達成への道と誤解し、人（子ども）に押しつける。最たる例が、不登校問題。

人と係わり合うことは、相手との相互交渉が必要で、マニュアル通りにいかない「面倒臭い事」。でも、それに向かい合う勇気ある意識を持たないと、自信を持てるようにはならないと思っています。

言い換えれば、自信とは、人と係わり合う中で、マニュアルに頼らない自分を築くということでしょうかね。 】

（2006年3月13日 記）